

大阪府内の水ナス・イチゴ・ブドウ農家を対象とした 栽培環境モニタリング

○寺井普幸、上森真広、三輪由佳、瀬上修平（食と農の研究部）

[参画機関：泉州農と緑の総合事務所、中部農と緑の総合事務所、南河内農と緑の総合事務所、北部農と緑の総合事務所]

1. 背景と目的

大阪府における農業生産は生産者の高齢化が進む中、省力的な生産環境の整備及び、担い手の確保とその育成が大きな課題となっている。このような中、ICT技術活用等による「スマート農業」が注目されており、これを取り入れて、栽培環境データを基にした普及指導を展開し、省力的な生産環境の整備の啓発や担い手の効率的な育成を行い、各品目の産地強化を図る。

2. 事業の内容

府内の環境制御機器の導入程度が異なる農家（自動換気装置のみを導入、自動換気装置と炭酸ガス施用装置を導入など）へ栽培環境モニタリング装置を導入し、自らの栽培環境を「知る」→「考える」→「制御する」を実践し、篤農家の栽培環境を再現できる農家を育成していく。

2020年9月より、次世代につなぐ営農体系確立支援事業及び、データ駆動型農業の実践・展開支援事業において、水ナス農家12件（泉州地域）を対象に、栽培環境モニタリングを実施した。さらに、2021年9月からは、イチゴ農家7件（北部地域）、2022年5月より、ブドウ農家10件（中部・南河内地域）を追加し、栽培環境モニタリングを実施した。栽培環境モニタリングでは「栽培環境・生育・収量」を大阪府農と緑の総合事務所と連携して取得し、それらデータを当所で解析した後、現地検討会等で、生産者に対し、それら結果の情報還元を行っている。

3. 今後の方向性

- (1) 栽培環境データを取得する農家を増やす（裾野を広げる活動）
各農と緑の総合事務所等と連携し、環境計測機器のDIYに関する普及活動や計測機器を紹介する取り組みを行い、府内のデータ駆動型農業に貢献する。
- (2) 栽培環境データに加え、収量や生育データをスマート機器で収集する仕組みを提供
大学、民間企業、普及機関、生産者と連携した「楽に」データを取得するためのスマートデバイスやデータ共有を行うプラットフォームを開発する。
- (3) 収集データの研究利用
府内の現地ほ場から取得するデータを各品目の様々な課題を解決するための基礎データとして使用する。